
株式会社ダイキアクシス

2026年12月期 第1四半期 連結決算概要

PROTECT × CHANGE

2026年5月14日

1 | 2026年12月期 第1四半期 連結決算概要

	2025年1Q	2026年1Q		2026年通期	
	実績	実績	前期比	予想	進捗
売上高	128.0億円	132.7億円	+3.7%	500.0億円	26.6%
営業利益	7.4億円	6.1億円	△16.6%	14.5億円	42.7%
経常利益	8.0億円	6.4億円	△19.9%	13.5億円	47.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.5億円	3.9億円	△13.6%	5.4億円	72.2%

2026年1Qの状況

- 売上高：環境機器は大型案件剥落により若干の減収、住宅機器は各分野において堅調に増加
- 営業利益：環境機器は大型案件剥落により減益、住宅機器は原価回収基準特定案件の影響で一時的な減益に
- 中東情勢の緊迫化：現時点において業績への影響は限定的（[2026年5月8日付 当社リリース](#)）
 - 2026年通期業績予想：現時点で影響額を合理的に算定することが困難なため、業績予想に変更なし

2 | 2026年12月期1Q セグメント別決算概要(環境機器)

 環境機器関連事業	2025年1Q	2026年1Q		2026年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	69.2億円	68.6億円	△0.9%	255.0億円	26.9%
セグメント利益(営業利益)	9.5億円	8.1億円	△14.7%	21.8億円	37.3%
参考：経常利益	10.2億円	8.2億円	△19.6%		

2026年1Qの状況

- 国内：産業排水処理システムや浄化槽の販売・施工に注力も、前年同期の大型工事案件剥落により売上高及び利益は減少
- 海外：インドやインドネシア、中国において大型案件剥落等により減収も、インドでの製造方法見直し等により損失額若干の改善
- 地下水飲料化：エスコ契約・メンテナンス・プラント販売が堅調に推移し、増収増益に
- 建物総合管理：ホームセンター店舗案件の新規受注に注力したことで売上高増加

参考情報

- 海外の状況【グループ決算への取込みは3ヶ月遅れであり、2026年12月期1Qの海外数値は2025年10月～2025年12月分】
 - インド：受注は堅調。従前より進めていた工場での製造方法や工数の見直しが進み、材料費削減や工数低減により生産効率UP
 - インドネシア：売上確保のため工場系排水処理を受注できる体制に。顧客ニーズ・規制に合わせるため浄化槽スペック見直しも
 - スリランカ：引き続き現地政府や大学等への働きかけ、当社ブランドの浸透・強化を進めている
- 中東情勢の緊迫化：一部原材料の調達が不安定化も、現時点において影響は限定的

3 | 2026年12月期1Q セグメント別決算概要(住宅機器)

住宅機器関連事業	2025年1Q	2026年1Q		2026年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	50.7億円	56.9億円	+12.3%	210.0億円	27.1%
セグメント利益(営業利益)	2.2億円	1.6億円	△25.2%	6.8億円	24.7%
参考：経常利益	2.4億円	1.9億円	△21.5%		

2026年1Qの状況

- 住設販売・流通：ホテルやマンション等の大型案件が愛媛・関西の両エリアで寄与し、売上高は増加
ホームセンター向け販売もDCMグループの店舗数拡大に合わせ、納品先の拡大に注力したことで増収に
- 建築・設備工事：体育館の輻射熱冷暖房工事や木構造事業といった環境配慮型商材、教育施設関連、冷凍冷蔵・空調設備工事など、各分野で堅調に受注・施工が進み売上高は増加
- セグ利益：当2Qに完成予定の特定案件において、完成まで利益を伴わない原価回収基準による売上計上により一時的に利益が悪化

参考情報

- 中東情勢の緊迫化：一部商品・資材のメーカーで受注停止や出荷制限が発生も、現時点において影響は限定的

4 | 2026年12月期1Q セグメント別決算概要(再エネ)

再生可能エネルギー 関連事業	2025年1Q	2026年1Q		2026年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	6.6億円	6.4億円	△3.5%	31.6億円	20.3%
セグメント利益(営業利益)	0.1億円	0.1億円	+27.2%	3.0億円	6.5%
参考：経常利益	0.0億円	0.0億円	△28.5%		


2026年1Qの状況

- 太陽光発電：売電売上高(FIT及びPPA)は堅調に増加、施設販売及び工事で前期に大型案件があった反動で売上高は減少
従前より稼働準備を進めていたグリーンデータセンター2サイトが稼働開始、収益を計上
- 風力発電：FITによる売電売上高は堅調に増加
- バイオディーゼル燃料：東日本・日光エリアでの燃料販売増加により売上高・利益が増加
- 水熱処理：前期に試験装置販売があった影響で売上高は減少

参考情報

- グリーンデータセンター：再生可能エネルギーである太陽光発電を主な電力源としたデータセンター
- バイオディーゼル燃料：従前より事業展開していた愛媛に加え、需要の多い関東地方での事業展開を推進中

5 | 2026年12月期1Q セグメント別決算概要(その他)

 その他 (家庭用飲料水事業・ ベンチャーキャピタル事業)	2025年1Q	2026年1Q		2026年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	1.3億円	0.7億円	△45.9%	3.4億円	22.1%
セグメント損失(△)(営業損失)	△0.2億円	△0.1億円	—	△0.4億円	—
参考：経常利益	△0.4億円	△0.0億円	—		

2026年1Qの状況

- 家庭用飲料水事業：
 - アクシスウォーターの拡販に注力・経営資源を集中させることを目的として、2026年1月5日付で、ボトル型ウォーターサーバー事業を新設分割会社である株式会社クリクラ愛媛に承継させ、同新設会社の全株式を株式会社ナックへ譲渡
 - ボトル型及び他社製全自動型ウォーターサーバーから「アクシスウォーター」への移行、新規契約者の獲得を進めたことで契約数は順調に増加

参考情報

- 家庭用飲料水事業：アクシスウォーターはサブスクモデル(ストックビジネス・定期定額)であるため、ボトル型に比べ顧客売上単価は減少も、今後の契約数増や継続的な改善・サービス提供により、収益のさらなる積み上げを企図
- ベンチャーキャピタル事業：2号ファンド(DAVPベンチャーTF for SUSTECH投資事業有限責任組合)を2025年1月に組成
1号ファンド(DAVPベンチャー1号投資事業有限責任組合)と合わせて計12社への投資を実施中